

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.210

2020年 1月31日

発行所 兵庫教育文化研究所

〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

「箏で『わらべうた』を楽しもう」 音楽教育部会

三田市内の小学校で、音楽教育部会が研究授業をおこないました。2年生の「日本のうたを楽しもう」という単元で、わらべ歌「なべなべそこぬけ」に合う伴奏を箏でつくる内容でした。

音楽室には、11面の箏が並べられていました。授業は「おはようございます」の発声練習から始まりましたが、裏声できれいな響きでした。続けて、カードに表示された6パターンのリズム打ち（1小節分）を当てるゲームをおこないました。リズムになれた子どもは、電子黒板に提示されたリズム打ちもおこないました。パワーポイントで次々に提示されるパターンは徐々に難しくなっていきます。全員のリズムがそろると、「やった」という表情でした。授業者もうまく褒めながら、自信を持ってとりくめるような言葉かけが印象的で、子どもとの信頼関係ができる要因になっているようでした。練習を重ねていくと、最後には「なべなべそこぬけ」のリズム打ちになっていました。

リズム打ちから電子黒板に教科書が提示され、ミ・ソ・ラの3音で4小節の伴奏を作る手順の説明を受けました。ペアが向かい合って、歌を歌う児童に伴奏を作る子どもが合わせるという練習をおこないました。箏爪を使わず、つま弾く形で伴奏を作りました。何回か練習した後、交替をしました。

作った伴奏の旋律を発表し、お互いが聴き合いました。続いて、ペアで向き合い、主旋律をひく子どもが箏爪をつけ、伴奏を弾く子どもはつま弾く形で練習をしました。歌でもよいと言われ、主旋律を歌うペアもありました。発表したいというペアも多く、児童の意欲を感じました。最後は全員で、「なべなべそこぬけ」をそれぞれのパートで交替して2回演奏しました。「これで箏を使った授業は終わりですが、また3年生でもやります」という授業者の発言に、子どもたちは「やった」と声を上げていました。

事後研究では、授業者より、調弦より音階を自由に操作できることから、鍵盤ハーモニカより子どもが楽しめるのではないかとということで、2年生であえて箏を利用された説明がありました。「ICTを活用したリズム打ちは、テンポよくすすめられていたこと」、「伴奏のリズムも子どもができる工夫がされていたこと」、「箏に触れる時間も多く、何度も何度も課題にとりくむ姿が見られたこと」から、「児童が集中力を切らさず、45分間とりくんでいた」ということが話題になりました。リズム打ち等の常時活動の重要性と、「わらべ歌」は祖父母や両親から伝承される機会が少なくなっていることから、学校で紹介することが大切である、ということも確認されました。

音楽教育部会では引き続き、高学年・中学生になっても音楽が楽しい授業の実践にむけて研究をすすめていきます。

（本授業の指導案は「組合員専用ページ」に掲載しています。ID、パスワードは各地域組合へお問い合わせください。）

